

SDGs未来都市等進捗評価シート

2018年度選定

秋田県仙北市

2021年8月

SDGs未来都市計画名

仙北市SDGs未来都市計画

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

—

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

仙北市SDGs未来都市計画

(2) 2030年のあるべき姿

直面する深刻な人口減少問題等の課題解決を図るため、SDGsの考え方を積極的に活用し、経済、社会、環境の三側面の取組による相乗効果が期待できる施策を実施し、人口縮小の状況にあっても、市民と行政の協働による誇りあるまちづくりを進め、産業が活性化され、市民が生活の豊かさを実感できるようになっている姿を目指す。

(3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール

経済	社会	環境
 8 働きがいも経済成長も	 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	 3 すべての人に健康と福祉を
	 11 住み続けられるまちづくりを	 2 飢餓をゼロに
		 7 エネルギーもみんなにそしてクリーンに
		 14 海の豊かさを保ちよう

(4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※口内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	観光宿泊者数【8.9】	2018年 514,256 人	2020年 504,967 人	2030年 860,000 人	-3%
2	近未来技術関連における起業及び事業拡張数（累計）【9.5】	2018年 3 件	2020年 29 件	2030年 30 件	96%
3	健康寿命（男）【3.4】	2016年 76.96 歳	2019年 77.48 歳	2030年 78.96 歳	26%
4	健康寿命（女）【3.4】	2016年 82.84 歳	2019年 83.1 歳	2030年 84.61 歳	15%
5	人口増減率【11.3】	2018年 -2.08 %	2020年 -2.18 %	2030年 -1.5 %	-17%
6	耕作放棄地解消面積（累計）【2.4】	2018年 3 ha	2020年 28.48 ha	2030年 42 ha	65%
7	水素生成量【7.a】	2018年 20 ℓ	2020年 29 ℓ	2030年 ##### ℓ	0.01%
8	田沢湖のpH【14.3】	2018年 5.4	2019年 5.4	2030年 6.0	0%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

①「観光宿泊者数」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて進捗はマイナスとなった。アフターコロナに向けて、体験メニューの新設、SNS等を用いた誘客により目標達成を目指す。

⑤「人口増減率」は、目標に逆行して減少傾向となった。若者にとって魅力的な雇用の場を作るため、産業分野への近未来技術の導入およびサテライトオフィス誘致を推進する。

⑧「田沢湖のpH」は、当初値のまま変わっていない。強酸性の温泉水の中和処理による一定の効果であるが、これに加えて水素生成によるpH改善効果を得るため、東北大学大学院環境科学研究科と連携し、持続的な水素生成方法を確立する。

他の地域への普及展開として、東北SDGs未来都市サミットへ下記の自治体が加入している。

(2018年) 秋田県仙北市、宮城県東松島市、山形県飯豊町

(2019年) 岩手県陸前高田市、福島県郡山市

(2020年) 岩手県岩手町、宮城県石巻市、宮城県仙台市、山形県鶴岡市

(2021年) 岩手県一関市、福島県福島市、山形県米沢市

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2018年～2020年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2020年目標値	達成度(%)
1	① 近未来技術による夢のあるまちづくり	小学校でのドローンによるロボットプログラミング学習導入率	2017年 43 %	2018年 100 %	2019年 100 %	2020年 100 %	2020年 100 %	100%
2	① 近未来技術による夢のあるまちづくり	近未来技術関連における起業及び事業拡張数（累計）	2017年 3 件	2018年 13 件	2019年 19 件	2020年 29 件	2020年 11 件	325%
3	②「温泉×健康」による持続可能なまちづくり	温泉利用者数	2017年 789,000 人	2018年 773,142 人	2019年 758,740 人	2020年 535,956 人	2020年 839,000 人	-506%
4	②「温泉×健康」による持続可能なまちづくり	観光宿泊者数	2017年 514,256 人	2018年 509,648 人	2019年 504,967 人	2020年 346,395 人	2020年 622,000 人	-156%
5	③ 田沢湖再生の加速化	環境教育での田沢湖クニマス未来館への来館者数	2017年 599 人	2018年 1,294 人	2019年 1,173 人	2020年 641 人	2020年 800 人	21%
6	④ 農業IoTの導入による農業生産性の向上と耕作放棄地の削減	生産性向上に資する農業IoT営農面積の削減	2017年 1 ha	2018年 47.9 ha	2019年 151 ha	2020年 129.6 ha	2020年 11 ha	1286%
7	④ 農業IoTの導入による農業生産性の向上と耕作放棄地の削減	農業分野でのIoT技術導入件数	2017年 2 件	2018年 8 件	2019年 11 件	2020年 14 件	2020年 9 件	171%
8	⑤ 水素エネルギーの活用による産業振興	玉川温泉水からの水素生成量	2017年 20 ℓ	2018年 19 ℓ	2019年 50 ℓ	2020年 29 ℓ	2020年 1,000 ℓ	1%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

仙北市は、企業等と協働でSDGsを推進するため、連携に向けた検討や協定の締結を進めている。
また、SDGsに積極的に取り組んでいる市民の活動を市広報誌で紹介している。
今後は企業や団体等の取組も紹介し、SDGs実践者のネットワークを構築する。

自律的好循環のためには、民間事業者の主体性が必要なため、様々な地域課題の解決策として、民間事業者によるビジネス展開を考慮する。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2018年～2020年

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

・No.3指標「温泉利用者数」およびNo.4指標「観光宿泊者数」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて達成度は60%前後となった。アフターコロナに向けて、体験メニューの新設、SNS等を用いた誘客により目標達成を目指す。【再掲】

・No.8水素エネルギー利用に向けた取組については、水素生成パイロットプラントの稼働実験ができたものの、反応容器の内部構造上、アルミニウム表面に新鮮な温泉水が十分に供給できず、化学反応が進まないという課題が見つかったため水素生成量は大幅減となった。

◆仙北市のSDGsモデル事業「IoT・水素エネルギー利用基盤整備事業」の進捗

【2018年度】園芸作物に関する農業IoT実証実験、玉川温泉水からの水素生成実験。

【2019年度】水稲栽培に関する農業IoT実証実験、玉川温泉水からの水素生成実験、ドローンによる物資輸送実証実験。地域の足としての自動運転のためのAI学習データ取得及び配車予約システム運用。2020年3月、水素エネルギーをはじめとする資源の有効活用及び産業振興を目的として、水素生成プラントの製作、温泉水からの水素生成実験等を連携協力して実施することについて、仙北市、東北大学大学院環境科学研究科、日本精機株式会社が連携協定を締結。

【2020年度】水稲栽培に関する農業IoT実証実験、玉川温泉水からの水素生成実験、ドローンによる物資輸送実証実験、水素ドローン飛行実験。自動運転のためのAI学習データ取得及び配車予約システム運用。

【2021年度】田沢湖クニマス未来館と連携したSDGs教育旅行の受入れ。玉川温泉水からの水素生成実験。

(4) 有識者からの取組に対する評価

・近未来技術分野での事業拡張、農業のIoT導入件数で目標を上回る成果を上げていることが高く評価できる。これらの成果が、耕作放棄地にどのようにつながっているか、今後のまちづくりへの展開の可能性の周知を期待する。

・起業家等の連携プラットフォームや市民対話の機会、技術観光の振興等についての検討を期待する。

・小学校におけるドローンのプログラミング教室は、良い取組であるため、小学校卒業後、地域におけるドローンの取組へのインターンを含めて連携が取れた取組を検討することを期待する。